

3月の明倫茶会は、美術家の国谷隆志を席主に迎えて開催します。国谷は人と空間の関係性に関心を寄せ、主にネオン管を用いたインスタレーション作品を制作しています。国谷の作品は、その作品空間に身を置いた鑑賞者に、空間性、時間性、あるいは場との関係性を手がかりに、自分自身の存在についての思考を促します。国谷が作品に込める空間と人との相互作用は、しつらえられた空間で一服のやり取りを通じて時間を共有する、茶会の形式になぞらえることができるかもしれません。

国谷氏によるインスタレーション空間でのとっておきの一服を、どうぞお楽しみに。

富間芽(アートコーディネーター)

席主からの一言

春分の日に食べるぼた餅には、小豆の赤色が邪気を払うといういわれがあります。先祖への供養でもありますが、人々にとっては春を迎える何よりのお楽しみだったことでしょう。

この度のお茶席で私がご用意するのは、ぼた餅ならぬ「赤いいろいろ」となります。この季節の変わり目の一日に、皆様に少し変わった体験を楽しんでいただければと思っています。

Profile

国谷隆志

1974年京都府生まれ、1997年 成安造形大学立体造形クラス卒業。京都在住。主な展覧会に『Pink Objects』(Uterior Gallery, ニューヨーク, 2017)、『Light: Fixtures and Sculptures』(LMAK gallery, ニューヨーク, 2016)、『Bai-in』(松花堂庭園・美術館、京都, 2016)、『Deep Projection』(兵庫県立美術館, 2016)、『Momentary Shape』(アトスベース虹、京都, 2014)、『Pavilion 0』(Signum Foundation Palazzo Dona, ヴェニス, 2013)、Nuit Blanche Kyoto 2012『two passages』(京都芸術センター, 2012)など。

TOPIC 01

明倫茶会 赤いいろいろ

芸術、学術、産業など、各分野で活躍する方が席主となってお客様との一期一会を演出する明倫茶会。お菓子やお茶、しつらいや茶道具など随所にこだわりを散りばめた趣向は、現代の文化の一端を垣間見る機会となり、毎回新たな発見をもたらします。今回の席主を務めるのは、京都を拠点に活動を続ける現代美術家の国谷隆志さんです。3月21日のお茶会終了後は、お茶席のしつらいを公開して作品展示を行います。

「赤いいろいろ」^夜

日時：3月21日(水・祝)
13:00/14:00/15:00/16:00
会場：大広間
席主：国谷隆志(現代美術家)
内容：お水と角砂糖(お土産付き)
料金：1,000円
定員：各席20名(要事前申込/先着順)

展覧会「Something Red」

明倫茶会のしつらいを公開して国谷隆志の作品展示を行います。
会期：3月22日(木)～30日(金)10:00～20:00
※最終日は17:00まで
※会期中無休・入場無料
会場：大広間
※イベント情報(P2)もご覧ください

EVENTS

2017年4月

2017年3月

2017年2月

2017年1月

2016年12月

2016年11月

※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

美術

『**生業・ふるまい・チューニング** 小出麻代**－越野潤**』展
会期：2月22日(木)－4月8日(日)
10:00－20:00 ※会期中無休・入場無料
会場：ギャラリー北・南・和室「明倫」ほか

【関連企画】

アーティスト・トーク

日時：2月24日(土)15:00－16:30
集合：ギャラリー南
※入場無料、事前申込不要

展覧会を味わう試み5種

暗がりの散策
作家と展示空間で過ごす、マイクロツアー。お茶とお菓子付。
日時：3月3日(土)15:00－16:00
会場：ギャラリー南
ガイド：小出麻代
お菓子：杉山早陽子(御菓子丸)
料金：1,000円
定員：20名(先着順／要事前申込)

「**早春夜話**」ナイトミュージアム京都連携企画
マイクの電源を切って、話し声に耳を澄ませる夜。
日時：3月17日(土)18:30－20:00
会場：ギャラリー南
ゲスト：梅田哲也(現代美術)
ガイド：小出麻代
料金：無料
定員：40名(先着順／要事前申込)

肅々音楽祭－A面
日時：3月18日(日)16:00－17:00
会場：ギャラリー北
選曲：越野潤
※入場無料、事前申込不要

肅々音楽祭－B面
日時：3月23日(金)19:00－20:00
会場：和室「明倫」
選曲：越野潤
※入場無料、事前申込不要

クロージング・パフォーマンス[🎭]
日時：4月7日(土)16:00(約60分)
会場：ギャラリー北
出演：カール・ストーン(電子音楽)
料金：1,000円
定員：40名(先着順／要事前申込)
※パフォーマンス中、ギャラリー北の入場を制限いたします。

アーティスト・イン・レジデンスプログラム2017
公募プログラム ビジュアル・アーツ部門
Kim Jeawon ^{キム ジェウォン} オープンスタジオ
会期：3月1日(木)－3月4日(日)
12:00－19:00
※会期中無休・入場無料
会場：制作室8

【関連企画】
パブリック・ミーティング
日時：3月4日(日)17:00－18:30
会場：制作室8
話し手：キム・ジェウォン
聞き手：武本彩子(キュレーター)
※入場無料、事前申込不要
※逐次通訳あり

伝統

KAC Performing Arts Program 2017 / **Traditional Performance**
継ぐこと・伝えること60
『**沓占式－下駄占い－**』[🎭]
日時：3月4日(日)開場13:30 開演14:00
会場：講堂
出演：齋藤登(沓占式家元)
登壇：茂山童司(狂言師)、井上治(京都造形芸術大学准教授)、村川拓也(演出家)
司会：小林昌廣(情報科学芸術大学院大学教授)
料金：一般前売1,800円／当日2,000円
高校生以下500円(前売・当日共)
※Topic02(P4)もご覧ください

伝統芸能文化創生プロジェクト
『**先覚に聴く**』[🎭]
各時代の染織品及び石垣をどのように現代に還元させているか、お話を伺います。
日時：3月10日(土)15:00－17:00
会場：フリースペース
登壇：梶谷宣子(染織修復家／メトロポリタン美術館終身名譽館員)、栗田純司(穴太衆積み石匠／粟田建設取締役会長)
司会：小林昌廣(情報科学芸術大学院大学教授)
料金：1,000円
定員：50名

明倫茶会

「**赤いいろいろ**」[🎨]
日時：3月21日(水・祝)
13:00／14:00／15:00／16:00
会場：大広間
席主：国谷隆志(現代美術家)
内容：お水と角砂糖(お土産付き)
料金：1,000円
定員：各席20名(要事前申込／先着順)

展覧会『Something Red』
明倫茶会のしつらいを公開して行う国谷隆志の作品展示。
会期：3月22日(木)－30日(金)10:00－20:00
※最終日は17:00 まで
※会期中無休・入場無料
会場：大広間
※Topic01(P1)もご覧ください

音楽

KAC Performing Arts Program 2017 / **Music**
『**音楽を着る**』[🎵]
日時：3月11日(日)開場14:30 開演15:00
会場：講堂
出演：中川日出鷹(ファゴット)、ニコラ・ルリブ(作曲／ピアノ)、大西泰徳(チェロ)
着物製作：奥野むつみ
料金：一般前売2,000円／当日2,500円
学生1,500円(前売・当日共)
※Topic03(P4)もご覧ください

第28回京都フランス音楽アカデミー
現代音楽特別公開講座
作曲家イヴ・ショリスによる、特別公開講座を開催。
日時：3月27日(火)－29日(木)15:00－17:00
会場：講堂
講師：イヴ・ショリス
聴講料：2,000円(1回につき)／5,000円(全3回)
主催・問合せ：アンスティチュ・フランセ関西
TEL：075-761-2105

※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

演劇

村上慎太郎
『**アジア顔が巡る、アジアの無自覚**』
リサーチ報告会
KAC TRIAL PROJECT / Co-program 2017
カテゴリーC「共同実験」採択企画。村上慎太郎(夕暮れ社 弱男ユニット)が、東南アジアに属する異なる宗教圏の5都市を巡りながら、「アジア人としての顔」を現代へ問いかけるリサーチプロジェクトの報告会。
日時：3月31(土)17:00－18:30
会場：フリースペース
料金：無料
※事前申込不要
主催：村上慎太郎、京都芸術センター

ダンス

AIR Alliance Platform
『**ダンスと映画：物語る身体**』上映会[🎬]
日時：2月24日(土)、25日(日)
13:00／15:00／17:00
※24日(土)17:00の回終了後、飯名尚人によるトークイベント有
上映監督：インバル・オシュマン、ネイサン・スミス、飯名尚人
会場：ミーティングルーム2
料金：予約500円／当日800円(各時間入替制)
主催：JCDN、京都芸術センター

ホンマタカシ×CONTACTゴonz
『**鹿を殺すと残る雪**』[🎭]
KAC TRIAL PROJECT / Co-program 2017
カテゴリーA「共同制作」
日時：3月17日(土)20:00
18日(日)19:00
会場：講堂
出演：ホンマタカシ(写真家)、CONTACTゴonz
料金：一般前売2,500円／当日3,000円
学生前売2,000円／当日3,000円
主催：contact Gonzo、京都芸術センター
※Topic04(P4)もご覧ください

明倫アワー #5 津田大介[🎙]
日時：3月6日(火)18:00－19:30
会場：フリースペース
ゲスト：津田大介(ジャーナリスト)
ホスト：建畠哲(京都芸術センター館長、詩人)
料金：1,000円(ドリンク付)
定員：100名(先着順／要事前申込)
※P4もご覧ください

明倫ワークショップ

京都芸術センター制作室で創作活動を行うアーティストによるワークショップ。(参加無料)

広田ゆうみ＋二口大学「からだで本をよむ 12」
日時：3月2日(金)19:00－21:30
会場：制作室12
定員：10名
※動きやすい服装でお越しください

セレノグラフィカ
『**woolのように からだをあそぼう!**』
日時：3月4日(日)10:30－12:00
会場：制作室3
定員：8名
対象：経験不問。小学1年生以上。
持物：飲み物、タオル、裸足になれる動きやすい服装(デニム以外)

烏丸ストロークロック「朝ストレッチ」
日時：
おやこ編 3月10日(土)10:30－11:30
おとな編① 3月11日(日)10:30－12:30
おとな編② 3月17日(土)10:30－12:30
会場：制作室6
定員：10名
対象：おやこ編 3歳以上
おとな編①② 高校生以上
※動きやすい服装でお越しください

Monochrome Circus「ふれることから」
日時：3月10日(土)13:00－15:00
会場：制作室6
定員：20名
※動きやすい服装でお越しください

THE ROB CARLTON「コミカルな動きの探求」
日時：3月18日(日)10:30－12:30
会場：制作室5
定員：10名

京都フィロムジカ管弦楽団「室内楽演奏会」
日時：3月18日(日)13:00－14:00
会場：制作室12
定員：20名

MuDA「整体と運動 vol.4」
日時：3月24日(土)10:30－12:30
会場：制作室5
定員：15名
持物：水やタオル等
※動きやすい服装でお越しください

遊劇体「レコード漫談～LPレコードで聴く演劇～Part2」
日時：3月24日(土)15:00－17:00
会場：制作室6
定員：20名

KIKIKIKIKIKI

「**ダンスでアソブ(子供向け)**」
日時：3月30日(金)11:00－12:00
会場：制作室6
定員：12名

「**ちょっときつめのポディーワーク(大人向け)**」
日時：3月30日(金)13:30－15:30
会場：制作室6
定員：8名

持物：水やタオル等
※動きやすい服装でお越しください

KACセレクション

Nz「Tab.3 - 書き言葉と話し言葉の物性を表在化する試み『雲路と氷床』-Lightning talk is working in silence.－Fig.1-処女戯曲の翻訳と複製『赤裸々』とともに－」
日時：2月22日(木)15:15 /19:15
23日(金)、24日(土)11:15 /15:15 /19:15
25日(日)11:15 /15:15
会場：講堂
作・演出・宣伝美術：杉本奈月
出演・テキスト：森谷聖、益田萌
料金：一般前売3,000円／当日3,500円
※各種割引あり
主催・問合せ：Nz(エヌツー)
TEL：080-2432-5415(Nz制作部)
E-mail：gekidann2@gmail.com

アンサンブル九条山コンサート vol.5[🎷]
『**波形 スベクトル楽派－新音響言語の誕生**』
日時：2月28日(水)開場18:30 開演19:00
会場：講堂
出演：若林かをり(フルート)、上田希(クラリネット)、石上真由子(ヴァイオリン)、福富祥子(チェロ)、太田真紀(ソプラノ)、畑中明香(打楽器)、森本ゆり(ピアノ)、若林千春(指揮)、有馬純寿(エレクトロニクス)
料金：一般前売3,000円／当日3,500円
学生前売2,500円／当日3,000円
主催・問合せ：アンサンブル九条山事務局
TEL：090-1710-6597
E-mail：e.kujoyama@gmail.com

ピアニスト募集中!
ペトロフピアノを愛する音楽会III
『**ペトロフピアノを弾きたい人のための音楽会**』
1918年、元明倫小学校に寄贈されたペトロフ社(チェコ)のグランドピアノを、あなたも演奏してみませんか?
日時：3月31日(土)14:00－17:00
会場：講堂
※鑑賞は入場無料・事前申込不要
※出演は無料。希望者は3月15日までに、氏名・住所・電話番号・メールアドレス・曲目(1人15分程度)・プロフィール・希望リハ時間(11:00-13:00)・希望出演時間(14:00-17:00)を明倫ペトロフの会までご連絡ください。
主催・問合せ：明倫自治連合会・明倫ペトロフの会
問合せ：
TEL：075-231-2450(長谷川)
FAX：075-221-4406
E-mail：info@meirin-news.com

※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

祝・60周年! 第249回 市民狂言会
日時：3月2日(金)開場18:30 開演19:00
会場：京都観世会館(左京区)
演目：松樞、鐘の音、箕被、重喜
出演：茂山千作、七五三、千三郎、千五郎、宗彦、茂、童司 ほか
料金：前売2,500円／当日3,000円
※平成30年度市民狂言会の年間席札を先行販売

チケット取扱：京都芸術センター、大丸京都店、高島屋京都店、チケットぴあ(Pコード:482-568)
※団体券2,200円(20名以上)は京都芸術センターにて取扱
主催：京都市

※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

連句 体験教室参加者募集
『**連句 言葉を連ねる、想いを連ねる**』
日時：3月4日(日)、10日(土)、18日(日)、21日(水・祝)[全4回]※連続参加13:30－15:30
会場：ミーティングルーム2
講師：京都府連句協会
参加料：無料
定員：20名(先着順)
対象：高校生以上
持物：筆記用具
申込方法：電話かウェブサイトから教室名、氏名、人数、年齢、電話番号、E-mailアドレスをお知らせください。
主催：京都市、公益財団法人京都市芸術文化協会

※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

第2回Kyoto Danceworkshop
受講者募集
Co-program2018カテゴリーC共同実験採択企画。バレエダンサーを目指す人のための、4日間のワークショップ。
日時：4月1日(日)－4日(水)
会場：講堂、フリースペース
講師：マーティン・フリードマン、イネッサ・ブレハノワ、島崎徹
締切：3月18日(日)(必着)
※各クラスの詳細と日程、料金、応募方法については、京都芸術センターのウェブサイトをご覧ください

第38期制作室使用者募集
若手芸術家の活発な創作活動を支援するため、造形および舞台芸術作品の制作を行う「制作室」(全12室)を提供します。
使用期間：2018年10月1日(月)－2019年3月31日(日)

使用料：無料
条件：
・1申請につき使用期間は最大3ヵ月
・新しい芸術表現を試み、継続的な活動を展開していること
・制作した作品を京都芸術センター以外の場で発表する具体的な計画があること
・市民との交流に対して意欲的であること

MuDA PERFORMANCE + EXHIBITION
『**ゴミが空から降ってくる**』
児玉画廊跡地で、大量の廃材と共に行う約3時間のパフォーマンスと展覧会を実施。
日時：公演 2月24日(土)－25日(日)16:00
展覧会 3月1日(木)－4日(日)13:00－19:00
会場：児玉画廊跡地(南区)
料金：前売1,000円／当日1,500円
※展覧会は無料
主催・問合せ：MuDA
E-mail：muda.japan@gmail.com

セレノグラフィカ『Made of wool ～vol.1～星ヶ丘の手のひら』
女性ダンサー2名が、老女のように、幼女のように、ソロとデュオで時間を紡ぎます。
日時：3月10日(土)14:00 /16:00
11日(日)14:00
会場：ソーイングギャラリー(大阪府枚方市)
料金：前売1,200円／当日1,500円
問合せ：セレノグラフィカ
TEL：090-8467-6828(アピル)
E-mail：info@selenographica.net

広田ゆうみ＋二口大学
『**この道はいつか来た道**』
人はその終末をどう迎えるか。ホームレスの男女を通して描く、別役実の二人芝居です。
日時：3月16日(金)19:30
17日(土)15:00 /19:00
会場：人間座スタジオ(左京区)
料金：2,500円(前売・当日共)
問合せ：広田ゆうみ＋二口大学
TEL：090-3039-9894(ふたくち)
E-mail：roudokufh@yahoo.co.jp

※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

※その他のチケット窓口取扱公演：主催事業および🎭印の共催事業・制作支援事業

※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

REVIEW

音楽

一音のうつくしさ

中谷琢弥

Marihiko Hara Piano Concert

1月27日(土)
ゲーテ・インスティテュート・ヴィラ鴨川(京都市左京区)

清々しい公演だった。音楽は音楽でしかなく、その瞬間がうつくしければ、いい。余韻めいたものなど一切がその場に残らないからこそ、逆説的にその一点のうつくしさは強度を増して残っていく。それは良質な小説を読むのに似ている。思想やコンセプトや文脈やメッセージや物語や社会性や、そういった先にある、一音のうつくしさ。いとおしさ。そういったものが、原摩利彦のピアノにはあった。

原は、現代アートや舞台芸術、映像のための音楽など幅広く活躍する、今ももっとも注目される音楽家だ。坂本龍一や野田秀樹、名和晃平、ダムタイプの高谷史郎、ホンマタカシらが絶賛する才能。地元京都でのピアノコンサートは、ヴィラ鴨川のホールにて親密な距離感のなか行われた。

『Landscape in Portrait』(2017年発表)、『Flora』(2013年発表)といった自身のアルバムからの楽曲を中心に、環境音を交えての演奏や、ときにグランドピアノの弦を直接指ではじいたりも。繊細に、穏やかに進むかと思えば違和があって、また引き返したり、そのまま突き進んだり。ポスト・クラシカルな静謐さ、ときとして立ち上がるジャズの猥雑さ。あくまで軽やかな音色は、同じくピアノソロとして捉えたとときにニルス・フラームほ

関西圏の公演・展覧会について、
若手レビューアが月替りで執筆します。

ど感傷的ではなく、チリー・ゴンザレスほど情熱的でもなく。ただそこに響く音そのものを音楽にする、という行為は目新しさすらあった。だからか、どの音に焦点を当てるか、どう向き合うかによって音色や像は様を変えていく。近くで寄りそうか、細部を見つめるか、全体に没入するか、遠くから全景を眺めるか。プライベートな感情、たとえば思い出と重ね合わせてみるか。こう聴かなければ、こう聴くべき、といったものはなく、自由度が高いから(それはきっと原の意図だろう)、音楽との関係性は柔軟で多彩、多層だ。

近い未来、SpotifyやApple Musicなどのストリーミングサービスとスマートスピーカーが日常に浸透することで、音楽はそこを経由して聴かれるようになる可能性が高い。イヤホン/ヘッドフォン越しで聴かれることが多かったこの20~30年の状況から、それ以前の、本来音楽がそうあった、皆で聴く/空間を満たすものへ。このプライベートからパブリックへ、という回帰というのか進化というのか、が起こったとき、(安易なBGMとしてではなく)その環境を含めて音楽となる、という点においてはこの日の原のピアノとも通底する状態になったとき、音楽はまた、新しい景色や関係性を見せてくれるだろう。この日のコンサートを思い返してみるに、そうした未来までが連想されてうれしくなった。

なかに たくや/ライター、エディター●今回で担当ラストとなります。ありがとうございました。最近では東京にも拠点を構え、EYESCREAM(主にウェブのほう)を中心にコースカルチャー/次なる動きの胎動・起点を捉えています。



Photo by Yoshikazu Inoue

演劇

デジタルとアナログのあいだ

須川渡

うんま『search and destroy』
1月26日(金)~28日(日)
ウイングフィールド(大阪市中央区)

リアルとバーチャルの間を揺るがすような、デジタルネイチャーの表現に期待して観劇にのぞもうとした。LED照明に満たされた場内に、劇場というよりはどこかのライブ会場にきた気分になる。舞台上目を向けると、活字を印刷したA4用紙で壁が埋められている。「五輪」「戦争」といった時事を想起させる言葉、「恋人」「家族」「友達」といった繋がりを示す言葉、SNSを指すのか「S」「N」のアルファベットやハートマークが無数に貼られている。なるほど情報社会の氾濫かと思う一方、縦に横にスクロールすることもなく固定された活字の集合体は、デジタル社会に安易に入りこむことを拒んでいるようにも思える。

繁澤邦明の作・演出による本作品では、名前のない男(イトラ)を中心に、いくつかの場面が断片的に展開する。合唱隊が現れ、気に入らない指揮者をなんとなくの雰囲気と排除する。互いのハートをつけあう彼らの姿は同調圧力の成れの果てだろうか。信じるべき神を求めて教会に行く女性(久鬼そねみ)、アート作品と呼ばれる「人工的に作られた人間」(雀野ちゆん)など意味ありげな人物が登場するものの、物語の焦点が明確に結ばれることはない。短い動画を次々と消費していくような感覚だ。

先ほどのA4用紙を、俳優が自らの身体に貼りながら演技をする。紙に書かれた文字は、彼らを指示する代名詞にもなれば、別の事象への見立てにもなる。「付



撮影:小嶋謙介

度」や「AI」を貼りつけて話す俳優の姿は、どれだけ言葉の尽きてもありふれた流行語に回収されてしまう皮肉にも見える。(この演出には戯曲が本来持っている豊かなイメージが一方的に捉えられる危惧も覚えた。)

同じ文言を繰り返すバーチャル神父にすぎず、歌うことで連帯しようとする登場人物たちは、空々しく滑稽にみえる。この作品の根底には、どれだけテクノロジーを駆使しても他者を理解できないことへの不安がある。何もプリントされていない白紙の用紙が吹き上げられ、それまで男を取り巻いていた言葉が崩れ落ちていく。言葉の交わすことのできなくなった男の末路はイオネスコの『椅子』を想起させた。不条理演劇から続く人間の孤独や言語の断絶という問題は、ポスト・トゥルースの時代において、より現実味を帯びている。

だからこそ、これまでも演劇というメディアが描いてきた直接的なコミュニケーションの場が印象に残った。男は、AIとピンポン玉のキャッチボールを通して「私はあなたのことを思っています」と言葉のラリーを繰り返す。結局は1対1の関係から出発するしかない。作り手の照れを感じなくもなかったが、演劇の持つ素朴さが保たれているようにも思えた。

新しい知覚を切り拓くという意味では物足りなさも残ったが、データを紙媒体に印刷しないと落ち着かない自分としては共感することも多い。人間のアップデートに思いを巡らせる上演だった。

(1月28日13:00の回を観劇)

すがわ わたる/大阪大学招へい研究員●今回でこのレビューの担当は最後となります。3年間の執筆を通して、私の小劇場への見方もずいぶんと変化したように思います。ありがとうございました。

美術

技術の遊び/遊びの技術

雁木聡

【思考する技術】

1月13日(土)~2月12日(月・祝)
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA(京都市中京区)

「技術」の本義を、人間の身体の拡張と捉える見方がある。それ自体の当否はさておいて、技術(art)と人間がいかなる関係性を切り結ぶか、今は冷静に考えなおすべき時であるかもしれない。ロンドンで知り合った日英7名の作家たちによる本展覧会は、こうした事柄について、

技術とともに思考する作品群で構成されていた。とりわけ、作者の行為の中にある種の遊びの余地を持たせることで、批評性をにじみ出させた作品が目をついた。

たとえばトーマス・トウェイツ(GoatMan)では、ヤギになりきって生活するためのアームやヘルメット等が床に置かれ、その制作と装着の様子が映像で流される。この映像は、その補助具を装着した作者が、スイスの山岳地帯を四足歩行で歩き、ヤギと一緒に草を食む様子を映し出す。そこに、ヤギになることを通して全く別の視点を得てみたい、という作者の独白がオーバーラップする。本作品が提示する状況は、技術による進歩ならぬ「退化」である。とはいえ、ここにあるのは単なる技術批判や、「自然へ帰れ」式の原点回帰主義ではない。むしろ、遊戯的な性格を押し出すことで、技術に関する真面目な議論を無効化し、軽やかに逸脱するものであるだろう。

牛込陽介の映像作品(Omotenashi mask)は、そうした志向を共有するものであったと言える。本作品は、2020年、オリンピック開催中の東京を舞台に、英語を話せるが日本語なまりの抜けにくいタクシー運転手と、ロ

ンドンからの観光客の車内でのやり取りを主題としている。このタクシーには「Omotenashi mask」なる機能が備わっており、これを使えば日本人のカタカナ英語をイギリス英語の音声に変え、乗客の英語をゆっくりとした音声に変換することができる。それに加え、話者の顔をも、運転手や乗客の好みに合わせて変えることができるのだという。この技術のおかげで、二人間のコミュニケーションはきわめてスムーズになされ、乗客は大満足のうちに道中を終えることとなる。

ここできわめてストレートに表現されるのは、技術開発を支える人間的な欲望である。本作品は、そうした欲望の戯画化に過ぎないのか、それとも大真面目な未来予想図なのか。この種の決定不能性が、鑑賞者を取り巻く現実にもズレを生じさせるのだ。

今回展示された、もう一つの牛込作品(Plantolympics)は、趣きの異なる遊戯性でもって、その強度を増していた。この映像作品では、植物たちがネットを押し上げたり、ボールを自らの葉の上で転がしたりすることで点数を稼ぎ、何らかの競技にいそんでいる。鑑賞者である我々

は、そもそものルールも判然としないまま、この競技に何ら関与できずただ傍観することとなる。

ただ傍観する、という身振りこそが、テクノロジーの問題に熱くなりながら我々に必要なだろう。総じて、技術に対する過度の期待や恐れから一歩身を引くことへと、鑑賞者を導く展覧会であったことは記憶にとどめたい。

かりき さとし/高等学校教員●そろそろ卒業制作展のシーズンでしょうか。関わりのあるなしによらず、真剣に鑑賞したいと思います。



牛込陽介(Omotenashi mask) 撮影:葛西亜理紗

EVENT CALENDAR 3/1 ▶ 3/31

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
『生業・ふるまい・チューニング 小出麻代-越野潤』展(2/22-4/8)																														
●『生業・ふるまい・チューニング 小出麻代-越野潤』 【関連企画】暗がりの散策																														
アーティスト・イン・レジデンスプログラム2017 Kim Jeawon オープンスタジオ																														
●アーティスト・イン・レジデンスプログラム2017 Kim Jeawon オープンスタジオ 【関連企画】パブリック・ミーティング																														
●継ぐこと・伝えること60『番占式-下駄占い-』																														
●伝統芸能文化創生プロジェクト「先覚に聴く」																														
●KAC Performing Arts Program 2017 / Music 『音楽を着る』																														
●KAC TRIAL PROJECT / Co-programカテゴリーA「共同制作」 ホンマタカシ×コンタクトゴンゾ『鹿を殺すと残る雪』																														
●明倫アワー #5 津田大介																														
●日本画体験教室「日本画 絵の具で遊ぶ」(募集終了)																														
●連句体験教室「言葉を連ねる、想いを連ねる」																														
●連句体験教室「言葉を連ねる、想いを連ねる」																														
●連句体験教室「言葉を連ねる、想いを連ねる」																														
●[明倫WS] 広田ゆうみ+二口大学「からだを本をよむ 12」																														
●[明倫WS] セレノグラフィカ 「woolのように からだをあそぼう!」																														
●[明倫WS] 鳥丸ストロークロック「朝ストレッチ-おとな編①-」																														
●[明倫WS] 鳥丸ストロークロック「朝ストレッチ-おとな編②-」																														
●[明倫WS] THE ROB CARLTON「コミカルな動きの探求」																														
●[明倫WS] Monochrome Circus「ふれることから」																														
●[明倫WS] 京都フィロムジカ管弦楽団「室内楽演奏会」																														
●明倫茶会「赤いいろいろ」																														
●明倫茶会【関連企画】『Something Red』展覧会																														
●第28回京都フランス音楽アカデミー 現代音楽特別公開講座																														
●KAC TRIAL PROJECT / Co-programカテゴリーC「共同実験」 村上慎太郎「アジア顔が巡る、アジアの無自覚」リサーチ報告会																														
●[明倫WS] 遊劇体「レコード漫談-LPレコードで聴く演劇-Part2」																														
●[明倫WS] KIKIKIKIKIKI「ダンスでアソブ(子供向け)」/ 「ちよとつとつめのポスターワーク(大人向け)」																														
●[KACセレクション] ベトロフピアノを愛する音楽家III (ベトロフピアノを弾きたい人のための音楽会)																														

図書室休室日: 3月30日(金)

TOPIC 02

KAC Performing Arts Program 2017 / Traditional Performance 継ぐこと・伝えること60 沓占式一下駄占いー 伝統から創作へ。

「継ぐこと・伝えること」では、伝統芸能の「現在」に着目し、実演や解説などを交えて伝統芸能をわかりやすく紹介し、芸能の継承の意義について観客と出演者がともに考える機会を創出してきました。今回は、伝統芸能・文化がどのように今日まで継承されてきたのかについて、島根に伝わる下駄占い「沓占式(とうせんしき)」の実演とトークを通し、検証します。

沓占式とは、沓(下駄)と敷板(盤)を用いて、耕作や健康など様々な事象の吉凶を占う芸能です。はっきりとした起源は不明ですが、奈良時代に唐から伝わり、「明日天気になあれ」でお馴染みの子供の靴占い(靴飛ばし)の起源になったという説があります。

当日は、第一部で、齋藤登(第十七代沓占式家元)による実演と、茂山童司(大蔵流狂言師)を聞き手に、齋藤家に伝わる沓占式の変遷を伺います。第二部では、井上治(京都造形芸術大学准教授)、村川拓也(演出家)、茂山童司が登壇し、芸能を継承することについてのディスカッションを行います。パフォーマンスは、実演者のみならず、それを鑑賞する人がいて成立する芸術。伝統芸能においても同様に、芸能として観る人がいるからこそ、今に継がれ、後世に伝えられるのかも

しれません。私たちが目にしている伝統芸能は、どのような伝統を継いできたのか、今に至る見えない過程に迫ります。

齋藤氏によれば、沓占式では、天候や作物の実りだけでなく、明日の運勢や恋愛運など個人的なことも占えるそうです。伝統芸能・文化を見つめる、狂言師・研究者・演出家の若手3名のディスカッションも必聴。ご期待ください。

堀越芽生子(アートコーディネーター)

KAC Performing Arts Program 2017 / Traditional Performance

継ぐこと・伝えること60 沓占式一下駄占いー

日時：3月4日(日)
14:00開演 13:30開場 13:00受付開始
会場：講堂
料金：一般前売1,800円/当日2,000円
高校生以下500円(前売当日共)

■公演スケジュール

第一部
沓占式実演：齋藤登(沓占式第十七代家元)
トーク：齋藤登×茂山童司(大蔵流狂言師)
第二部 ディスカッション「芸能を継承すること」
司会：小林昌廣(情報科学芸術大学院大学教授)
登壇：井上治(京都造形芸術大学准教授)、村川拓也(演出家)、茂山童司

Profile

齋藤登(沓占式第十七代家元)

島根県出身。父の指導を受け、平成8年(1996)に家元を継承、現在は石見祇園社などで沓占式を執り行う。また沓占文化保存のため、宗家に伝わる伝書の研究や什器類の整理のほか、日本各地に残る沓占文化を調査している。沓占保存会会長。



茂山童司(大蔵流狂言師)

父茂山あきら、祖父二世茂山千之丞に師事。これまでに『千歳』、『三番三』、『釣狐』等の狂言の大曲を披く。作・演出を手がけるシリーズプロジェクト、「新作」純「狂言集マリコウジ」、コント公演「ヒヤクマンベン」を主宰。狂言以外にも現代劇、NHK語学番組へのレギュラー出演、オペラの脚本・演出を手掛けるなど狂言師としての枠を超えて精力的に活動中。



ニコラ・ルリブ 中川日出鷹 大西泰徳 奥野むつみ

TOPIC 03

KAC Performing Arts Program 2017 / Music 『音楽を着る』

KAC Performing Arts Program / Musicでは、毎年異なるテーマに基づいた音楽公演を開催しています。今年度は、音楽と着物によって、新しい音空間を創り出します。

得て、新しく衣装を製作します。

俳句や着物から生まれた音楽を、本公演では中川日出鷹(ファゴット)、ニコラ・ルリブ(ピアノ)、そして大西泰徳(チェロ)による演奏でお届けします。彼らの生み出す音色が描き出す四季の風景をお楽しみください。

当日は生演奏に加え、ルリブ作曲による電子音楽もお楽しみいただけます。様々なジャンルに挑む、今後が楽しみな若手作曲家です。

奥村麻衣子(アートコーディネーター)

『音楽を着る』というタイトルは、作曲家と染色作家の感性の呼応を表しています。四季をテーマとした音楽から湧き起こるイメージを着物に描き、また着物からインスピレーションを得て音楽を作る——両者の間の見えぬ交感を、一つの空間で表現することを試みます。

作曲を担当するのは、ベルギー出身の気鋭の作曲家、ニコラ・ルリブ。現在はスイスを拠点に、ヨーロッパやアジアで活動しています。もともと日本の俳句に興味があったルリブは、言葉から想起される情景を曲に反映させたと言います。昨夏来日した際に、染色作家・奥野むつみが着物に描く四季のイメージに触れ、今回の曲作りのためのヒントを得ました。奥野も、ルリブの音楽やファゴット奏者・中川日出鷹の演奏から着想を

KAC Performing Arts Program 2017 / Music

『音楽を着る』

日時：3月11日(日)開場14:30 開演15:00
会場：講堂
出演：中川日出鷹(ファゴット)、ニコラ・ルリブ(作曲/ピアノ)、大西泰徳(チェロ)
着物製作：奥野むつみ
料金：一般前売2,000円/当日2,500円
学生1,500円(前売・当日共)

明倫アワー#5 津田大介 × 建島哲

明倫アワーは、京都芸術センター館長の建島哲が毎回ゲストを招き、徒然なるままにお話をうかがうトーク企画です。第5弾のゲストは、ジャーナリスト/メディア・アクティビストであいちトリエンナーレ2019の芸術監督を務める津田大介氏。2010年に芸術監督を務めた建島と、新旧芸術監督トークを繰り広げます。ドリンク片手にお楽しみください。

明倫アワー#5 津田大介
日時：3月6日(火)18:00-19:30
会場：フリースペース
料金：1,000円(1ドリンク付)
定員：100名(先着順/要事前申込)

TOPIC 04

KAC TRIAL PROJECT / Co-program 2017 カテゴリーA「共同制作」 ホンマタカシ×コンタクトゴンゾ 『鹿を殺すと残る雪』

京都芸術センターが、アーティストや企画者と協働し、新たな作品を生み出すCo-programカテゴリーA。今回は、世界的に活躍する写真家・ホンマタカシと、ゴンゾという新しいジャンルを確立しつつあるアーティストグループ・コンタクトゴンゾが2013年に発表した『熊を殺すと雨が降る』の続編となる新作パフォーマンス『鹿を殺すと残る雪』を創作・発表します。

激しくぶつかり合い、窒息寸前まで重なり、逃れようとする男たち。舞台上に幽閉された熊。プリンターから無機質に出力される写真。謎の装置から射出される炸裂し散乱する果実。前作『熊を殺すと雨が降る』は、痛みのバリエーションにあふれた上演にもかかわらず、同時に、単なるいたづらにすら見える滑稽さはらんだパフォーマンスでもありました。前作の創作の経緯と今回のみどころについてコンタクトゴンゾの塚原さんに伺いました。

——前作はどのような取材を経て生まれたのでしょうか。

塚原：ホンマさんが、知床での鹿猟に同行して

製作された写真のシリーズ「Trails」をきっかけに作り始めました。「Trails」という作品、そして共同で制作することを通して、偶然性や運の善し悪しのようなところを触ったのかなど理解しています。ちょうど自分の子供が生まれた直後に猟に同行したので、めちゃくちゃ大事にされる命と、どんどん処分されていく命のコントラストに若干目眩がしたことを覚えています。

——両者に共通するユーモアと野生、命や肉体の極限への興味。異なるアプローチから、同じ山に別々の入口からアタックするような制作方法は、今回どのように発展するのでしょうか。

塚原：前回できなかったことや、前回からゴンゾが進化した部分もあるので、そういうところからアイデアをお互いに投げていく感じかと思っています。今回は、(ホンマさんが率いる)鹿バンドも登場します。

一枚の写真は強くメッセージを投げかけるようで、その実どうしようもなく物質的なものです。身体が写真にぶつかった後で残るのは、どんなイメージなのでしょう。

谷竜一(アートコーディネーター)



撮影：井上嘉和

KAC TRIAL PROJECT / Co-program 2017 カテゴリーA「共同制作」ホンマタカシ×コンタクトゴンゾ 『鹿を殺すと残る雪』

日時：3月17日(土)20:00、18日(日)19:00
会場：講堂
出演：ホンマタカシ(写真家)、コンタクトゴンゾ
料金：一般前売2,500円/当日3,000円
学生前売2,000円/当日3,000円
主催：contact Gonzo、京都芸術センター

Profile

ホンマタカシ(写真家)

2011年から2012年にかけて、個展『ニュードキュメンタリー』を日本国内三所の美術館で開催。著書に『たのしい写真 よい子のための写真教室』(平凡社)、近年の作品集に2016年イギリスの出版社「MACK」より刊行したカメラオブスキュラシリーズの作品集『THE NARCISSISTIC CITY』がある。昨年末から「ニュードキュメンタリー 映画特集上映」として、新作や過去の映像作品を含めた4作品が全国の映画館、美術館にて巡回上映中。

コンタクトゴンゾ

2006年に塚原悠也と垣尾優により結成。メンバーを緩やかに入れ替えながら現在は、塚原悠也、三ヶ尻敬悟、松見拓也、NAZEの4名で活動する。コンタクト・インプロヴィゼーションを基としながら、殴る、叩く、蹴るなど、肉体の衝突を用いたパフォーマンスを開発。また映像、写真、インスタレーション等、表現形態は多岐にわたり、コラボレーションにも積極的に取り組む。山の斜面を滑り落ちる山サーフィンのように、肉体の限界を見極めるような装置や遊びの中から作品を創作。2013年にMoMAでライブパフォーマンスを行った他、国内外の美術展やフェスティバル等で発表を行う。トヨタコロオグラフィアアワード2014ファイナリスト(塚原悠也)。2011年よりセゾン文化財団助成対象アーティスト。2015年度咲くやこの花賞受賞。

Since 1971
MAEDA'S COFFEE
KYOTO ART CENTER 1F
MUROMACHI, TAKOYAKUSHI
NAKAGYOKU, KYOTO
TEL:075-221-2224
10:00~21:30 everyday

林勇気
『電源を切ると何も見えなくなる事』
2016年4月5日-5月22日
展覧会カタログ 定価 500円(税込)
京都芸術センター窓口、もしくは下記ウェブサイトよりご注文いただけます。
<http://www.kac.or.jp/shop/>

KYOTO ART CENTER 京都芸術センター



交通案内
○市営地下鉄烏丸線「四条」駅/
阪急京都線「烏丸」駅22番出口・24番出口より徒歩5分。
○市バス「四条烏丸」下車、徒歩5分。
開館時間
○ギャラリー・図書室・情報コーナー 10:00-20:00
談話室・チケット窓口 10:00-21:30
○カフェ 10:00-21:30
○制作室、事務室 10:00-22:00
休館日
12月28日から1月4日
〒604-8156
京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
TEL：075-213-1000 FAX：075-213-1004
E-mail：info@kac.or.jp URL：http://www.kac.or.jp/
twitter：@kyoto_artcenter
facebook：http://www.facebook.com/kyotoartcenter

